

奈良県の過疎地域における集落実態調査結果の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

県内過疎地域の現状を把握して、課題を整理し、今後策定する県及び市町村過疎計画等に効果的な施策を盛り込んでいくための基礎資料とする。

2. 調査対象

(1) 調査対象集落

・県内の14過疎地域市町村の全438集落のうち、207集落を抽出

(2) 抽出方法

・65歳以上が50%以上の集落は全109集落、55歳以上が50%以上の集落は52集落を抽出(母集団の26.5%)、55歳未満が50%以上の集落は46集落を抽出(母集団の34.6%)した。抽出数は統計的手法に基づいている。

3. 調査期間

・平成21年7月1日～8月20日

4. 調査方法

・特定非営利活動法人(NPO法人)地域創造政策研究センター(地創研)に委託
 ・地創研調査員が、対象集落の代表者等に対する書面(調査票1:集落代表者票)及び対面聴き取り(調査票2:対面調査票)により、調査を実施(市町村職員が同行、県職員も一部同行)

5. 主な調査項目

・現在の生活の状況(生活環境の満足度、主要な移動手段、集落内で行う共同作業等)、将来の不安、行政に望む対策等

なお、本調査では、奈良県の過疎地域の状況を全国の過疎地域の状況と比較するために、以下の項目(Ⅱ 主な調査結果 1. (1)～(4))については、(財)過疎地域問題調査会が、平成20年7月に全国24の過疎地域市町村の住民1,200人を対象に実施した「過疎地域に関する住民アンケート調査」(以下「全国調査」という。)と同一の調査項目を設定した。

調査票1: 問7 10年後の生活を考えたとき、不安に感じること
 調査票2: 問2 集落内の生活環境
 問3 生活環境についての10年前との比較
 問6 今後の居住意向、住み続けたい理由

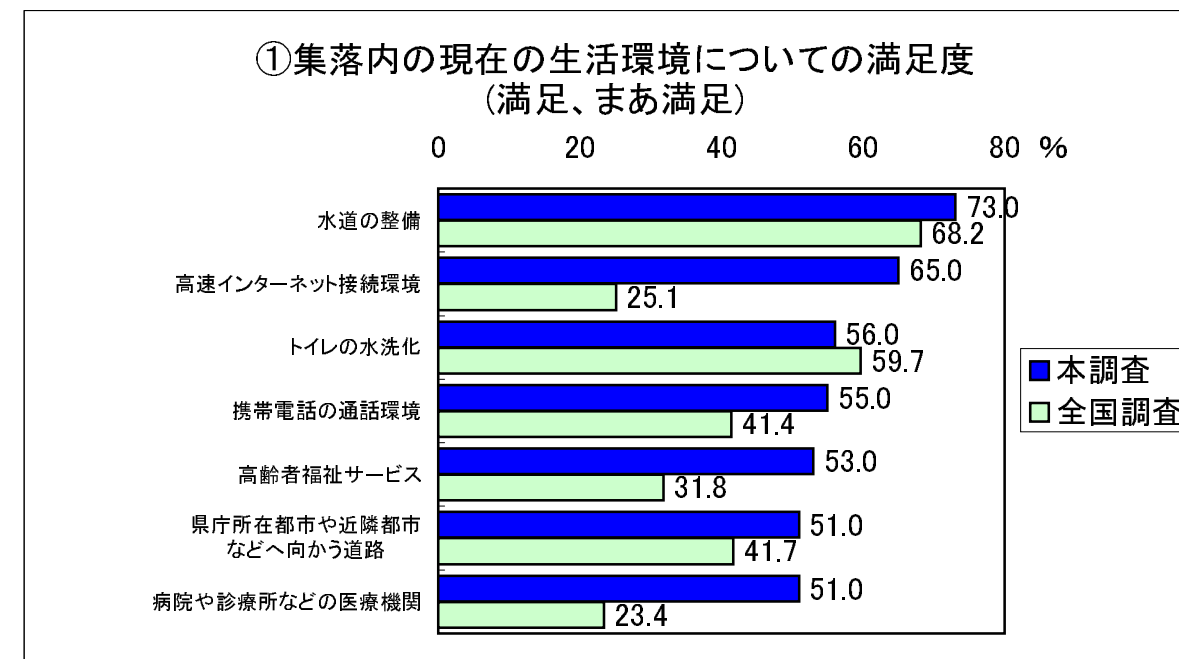
Ⅱ 主な調査結果

1. 全国調査と比較可能な項目

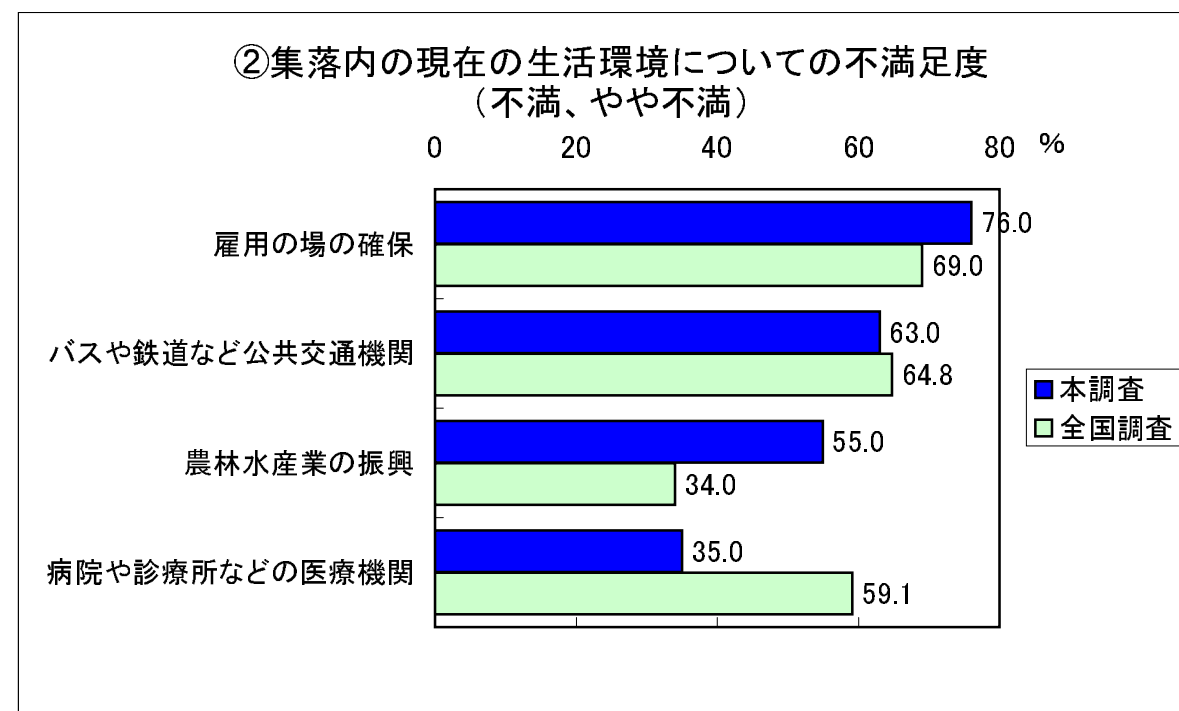
(1) 集落内の生活環境(調査票2 問2)

・①集落内の生活環境について「満足」または「まあ満足」と回答する割合が50%を超える項目は、「水道の整備」(73.0%)、「高速インターネット接続環境」(65.0%)、「トイレの水洗化」(56.0%)、「携帯電話の通話環境」(55.0%)、「高齢者福祉サービス」(53.0%)、「県庁所在都市や近隣都市などへ向かう道路」(51.0%)、「病院や診療所などの医療機関」(51.0%)の7項目であり、全国調査と比較して、満足度が高い項目が多い。

・特に、「高速インターネット接続環境」、「高齢者福祉サービス」、「病院や診療所などの医療機関」について、全国調査と比較して、満足度が高い。



・②集落内の生活環境について「不満」または「やや不満」と回答する割合が50%を超える項目は、「雇用の場の確保」(76.0%)、「バスや鉄道など公共交通機関」(63.0%)、「農林水産業の振興」(55.0%)の3項目である。
 ・特に、「雇用の場の確保」、「農林水産業の振興」について、全国調査と比較して、不満足度が高いが、「病院や診療所などの医療機関」については、不満足度が低い。

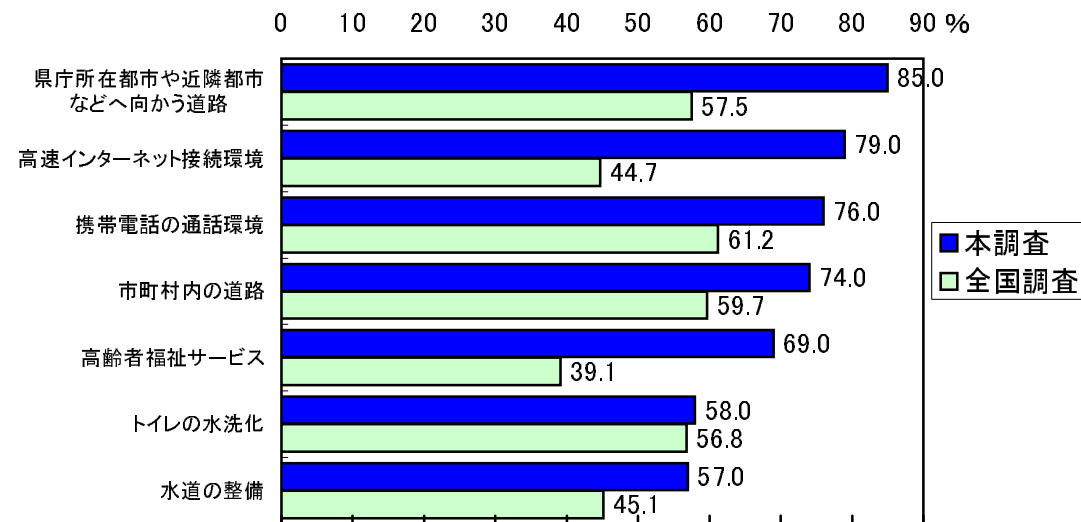


(2) 生活環境についての10年前との比較(調査票2 問3)

・①生活環境について10年前と比較して、良化した(「良くなった」または「どちらかといえば良くなった」と回答する割合が50%を超える項目は、「県庁所在都市や近隣都市などへ向かう道路」(85.0%)、「高速インターネット接続環境」(79.0%)、「携帯電話の通話環境」(76.0%)、「市町村内の道路」(74.0%)、「高齢者福祉サービス」(69.0%)、「トイレの水洗化」(58.0%)、「水道の整備」(57.0%)の7項目であり、これら全ての項目について、全国調査と比較して、良化したと回答する割合が高い。

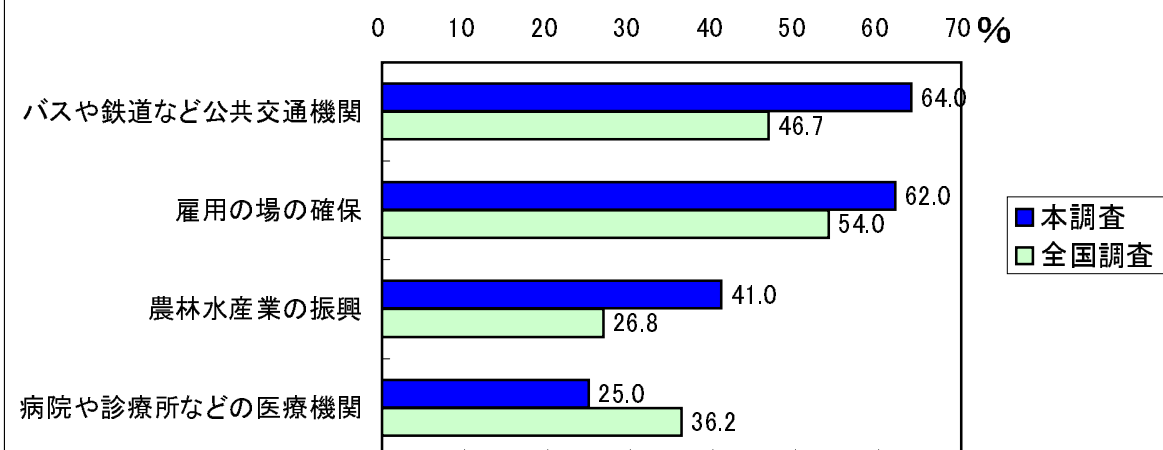
・特に、「県庁所在都市や近隣都市などへ向かう道路」、「高速インターネット接続環境」、「高齢者福祉サービス」について、全国調査と比較して、良化したと回答する割合が高い。

①生活環境についての10年前との比較(良化)



・②生活環境について10年前と比較して、悪化した(「悪くなった」または「どちらかといえば悪くなった」と回答する割合が50%を超える項目は、「バスや鉄道などの公共交通機関」(64.0%)、「雇用の場の確保」(62.0%)の2項目であり、これらの項目について、全国調査と比較して、悪化したと回答する割合が高い。

②生活環境についての10年前との比較(悪化)

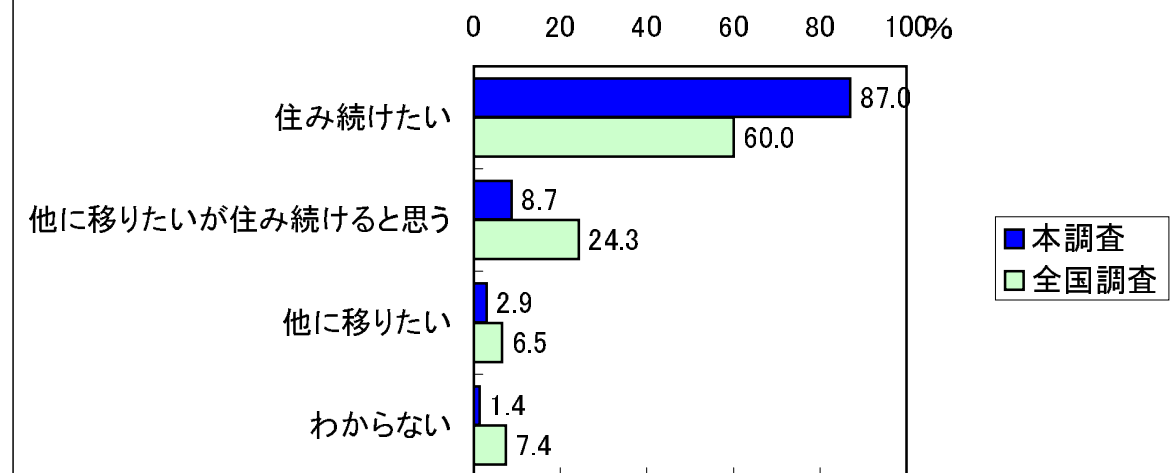


(3) 今後の居留意向及び住み続けたい理由(調査票2 問6)

・①今後の居留意向について、最も多いのは「住み続けたい」(87.0%)で、全国調査と比較して、高い回答の割合を示している。

・「他に移りたいが住み続けると思う」(8.7%)、「他に移りたい」(2.9%)は、全国調査と比較して、低い回答の割合を示している。

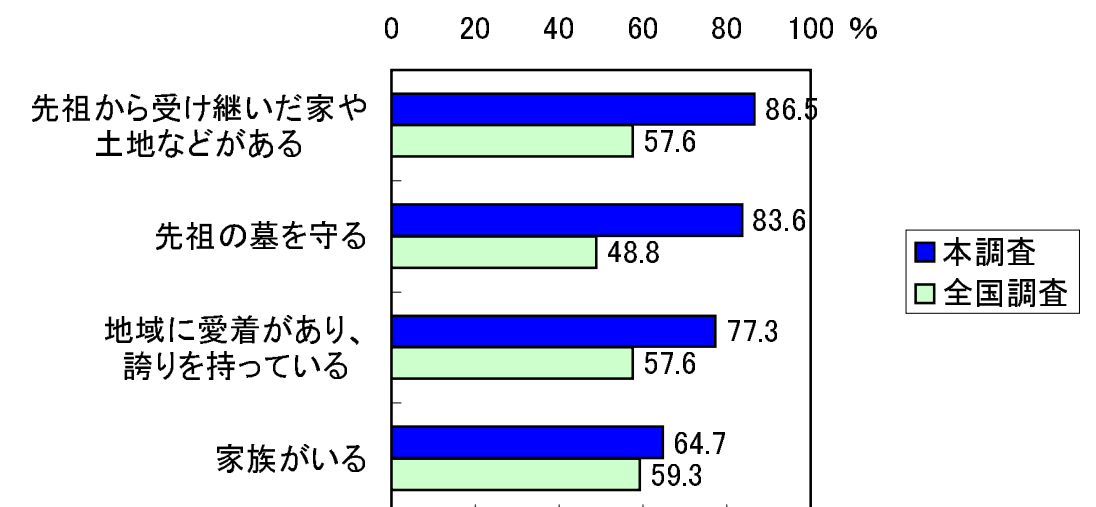
①今後の居留意向



・②住み続けたい理由について、最も多いのは、「先祖から受け継いだ家や土地などがある」(86.5%)で、「先祖の墓を守る」(83.6%)、「地域に愛着があり、誇りを持っている」(77.3%)、「家族がいる」(64.7%)と続く。

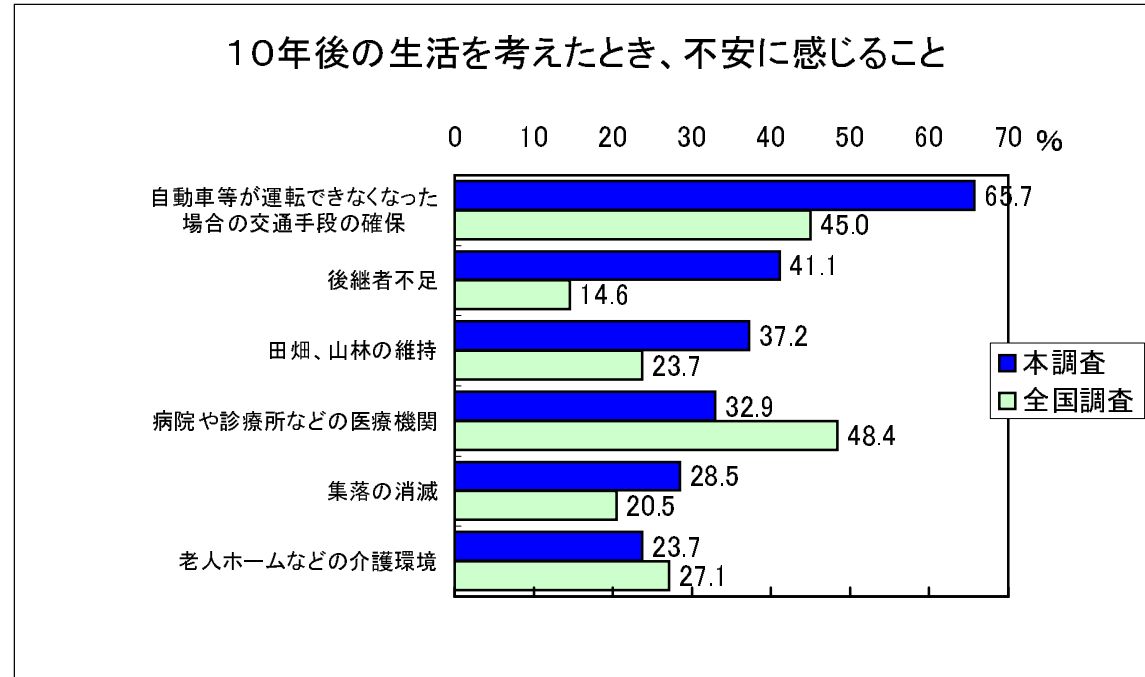
・全国調査においては、「家族がいる」(59.3%)を理由に挙げる人が最も多い。

②住み続けたい理由



(4)10年後の生活を考えたとき、不安に感じること(調査票1 問7)

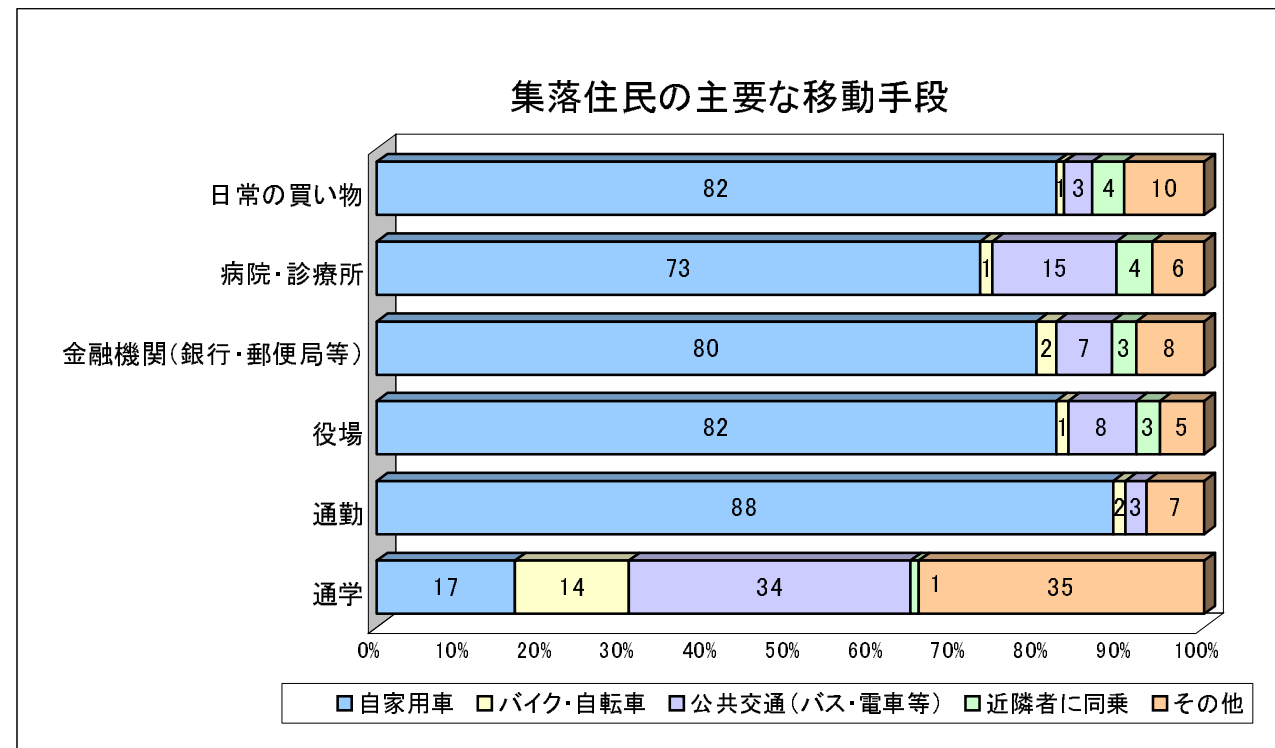
・ 集落内の10年後の生活を考えたとき、不安に感じることについて、最も多いのは「自動車等が運転できなくなった場合の交通手段の確保」(65.7%)で、「後継者不足」(41.1%)、「田畑、山林の維持」(37.2%)、「病院や診療所などの医療機関」(32.9%)と続く。
 ・ 特に、「自動車等が運転できなくなった場合の交通手段の確保」、「後継者不足」は、全国調査と比較して、高い回答の割合を示している。



2. 本調査独自の項目

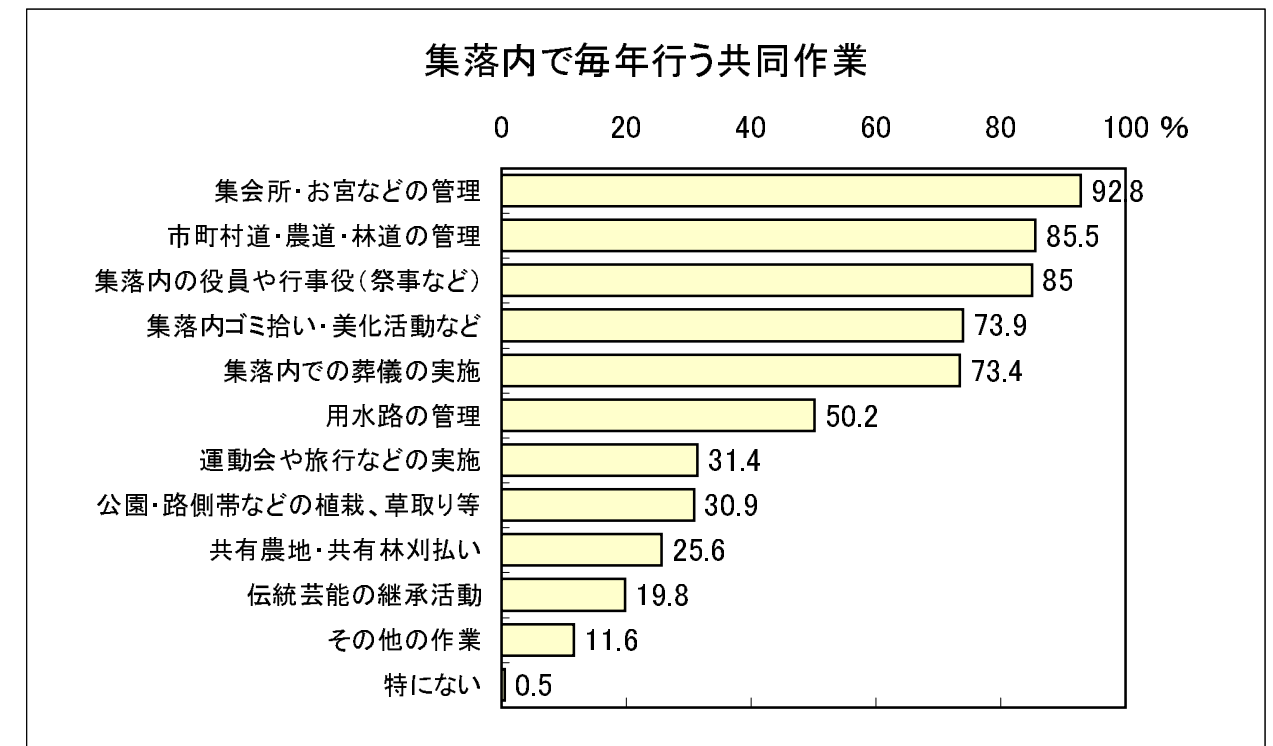
(1)集落住民の主要な移動手段(調査票1 問5)

・ 集落住民の主要な移動手段は、**自家用車**で、特に通勤での利用度が高い。自家用車以外の移動手段としては、病院・診療所への移動には、**公共交通**(コミュニティバスなど)の利用が多く、通学では、**公共交通**(スクールバスなど)の利用、徒歩によるものが多い。



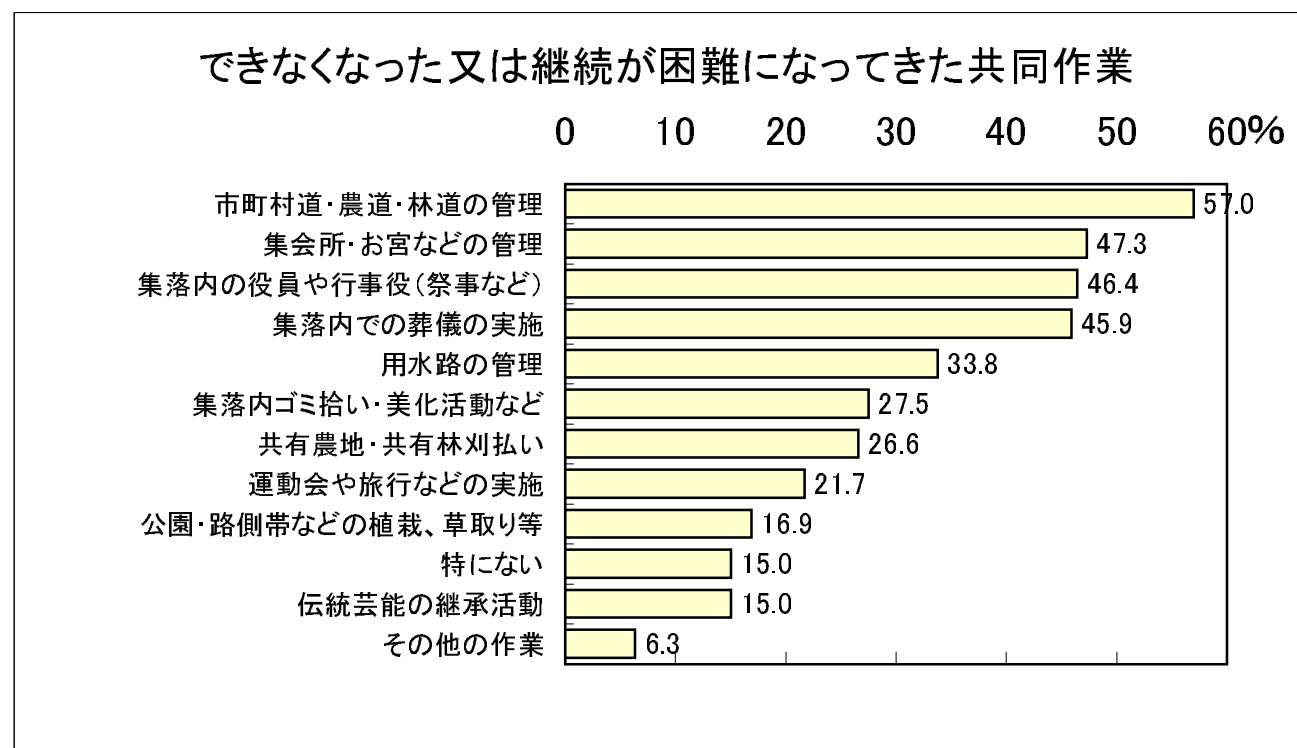
(2)集落内で毎年行う共同作業(調査票1 問9)

・ 集落内で毎年行う共同作業の上位5位は、「集会所・お宮などの管理」(92.8%)、「市町村道・農道・林道の管理」(85.5%)、「集落内の役員や行事役(祭事など)」(85.0%)、「集落内ゴミ拾い・美化活動」(73.9%)、「集落内での葬儀の実施」(73.4%)である。



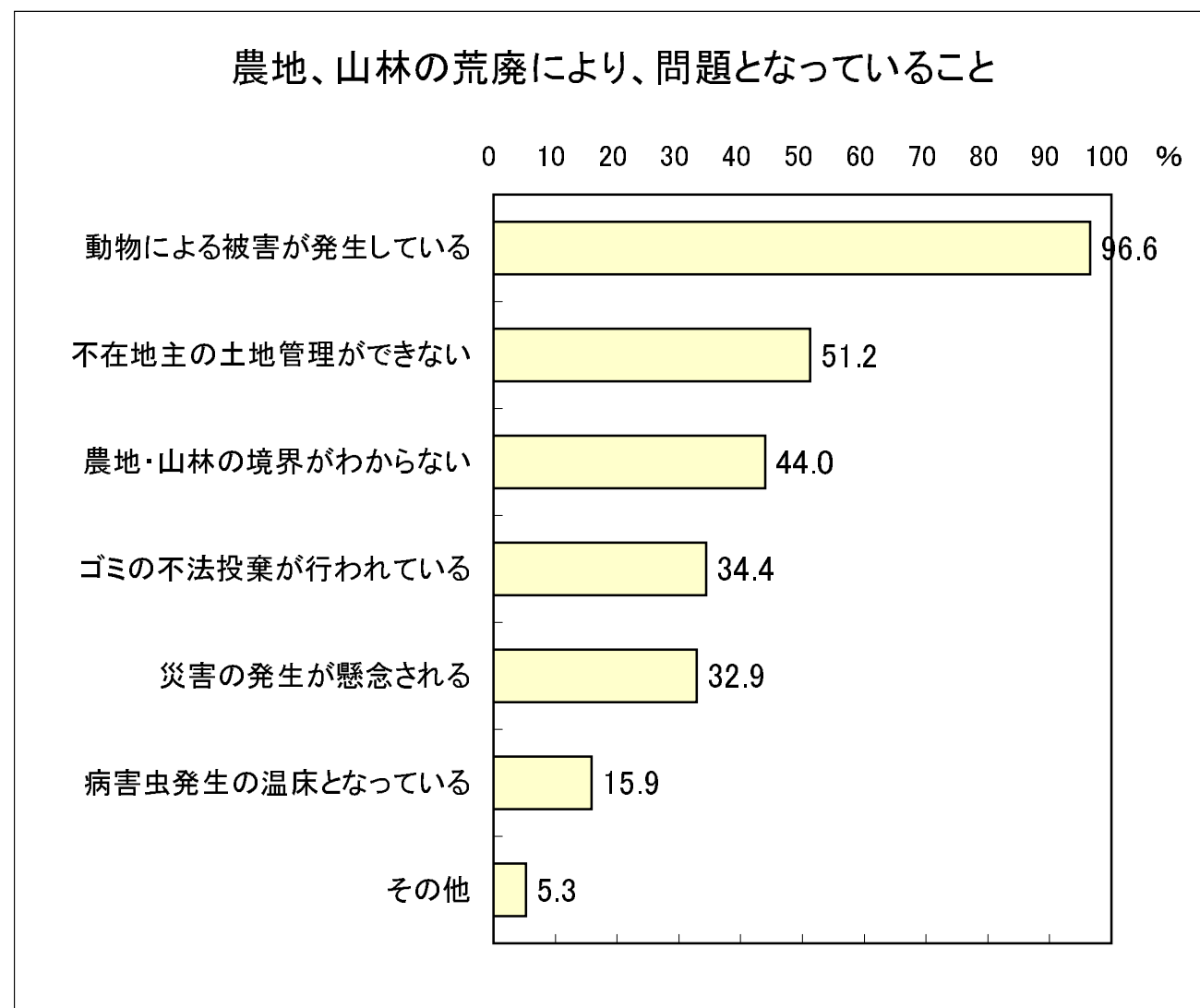
(3)できなくなった又は継続が困難になってきた共同作業(調査票1 問10)

・ できなくなった又は継続が困難になってきた共同作業の上位5位は、「市町村道・農道・林道の管理」(57.0%)、「集会所・お宮などの管理」(47.3%)、「集落内の役員や行事役(祭事など)」(46.4%)、「集落内での葬儀の実施」(45.9%)、用水路の管理(33.8%)である。集落内で毎年行う共同作業として、上位に挙げられているものが、継続が困難になってきている。



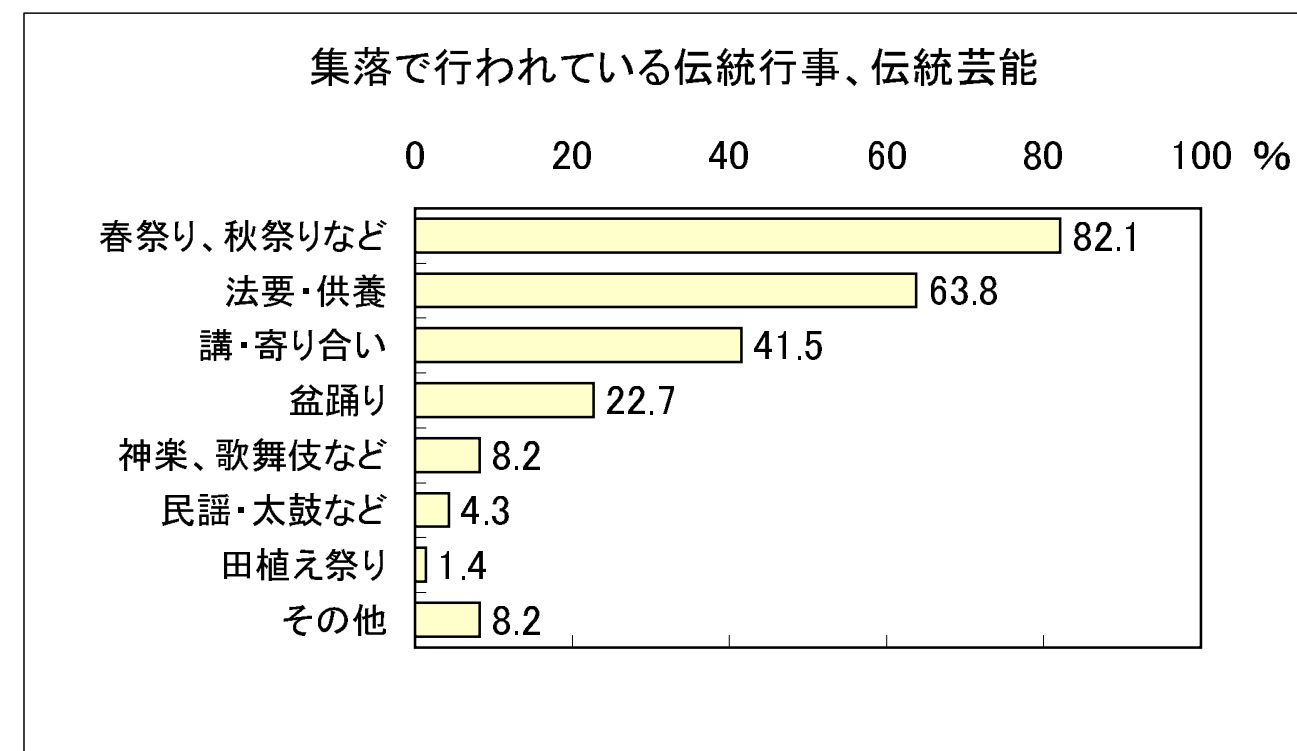
(4) 農地、山林の荒廃により、問題となっていること(調査票1 問14)

・農地、山林の荒廃により、問題となっていることの上位5位は、「動物による被害が発生している」(96.6%)、「不在地主の土地管理ができない」(51.2%)、「農地・山林の境界がわからない」(44.0%)、「ゴミの不法投棄が行われている」(34.4%)、「災害の発生が懸念される」(32.9%)である。



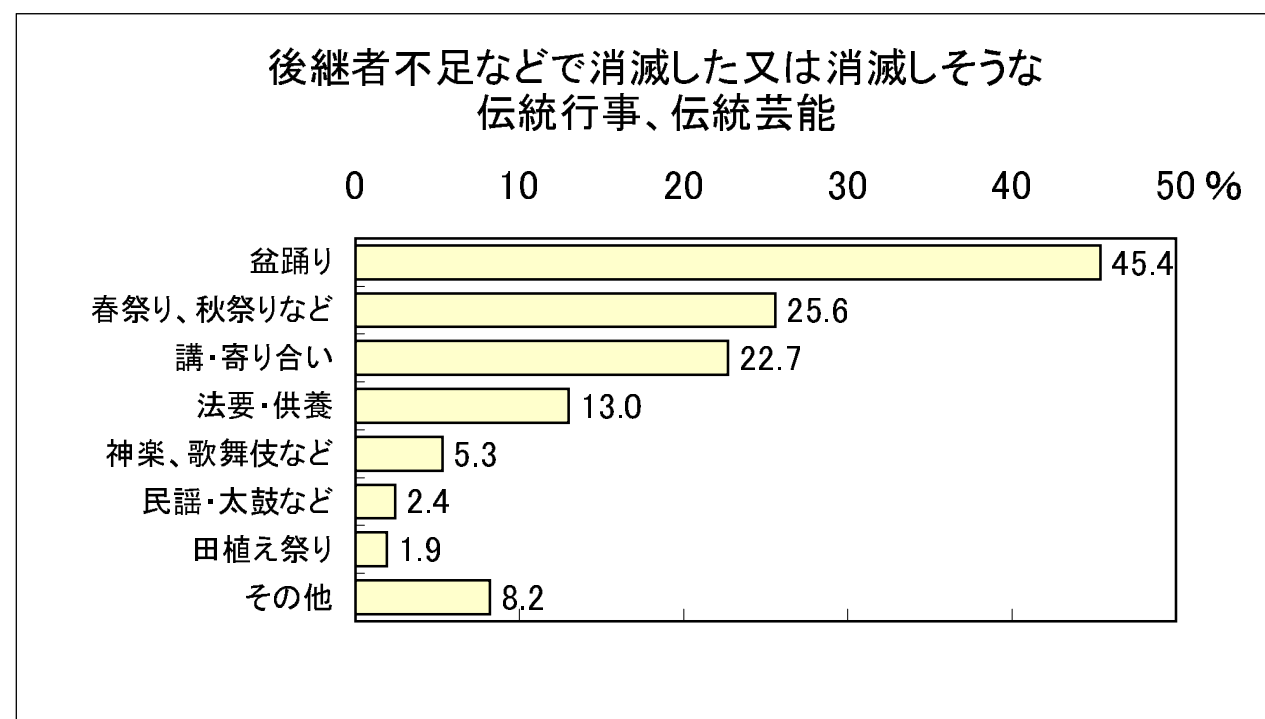
(5) 集落内で行われている伝統行事、伝統芸能(調査票1 問15)

・集落内で行われている伝統行事、伝統芸能の上位5位は、「春祭り・秋祭り」(82.1%)、「法要・供養」(63.8%)、「講・寄り合い」(41.5%)、「盆踊り」(22.7%)、「神楽、歌舞伎など」(8.2%)である。



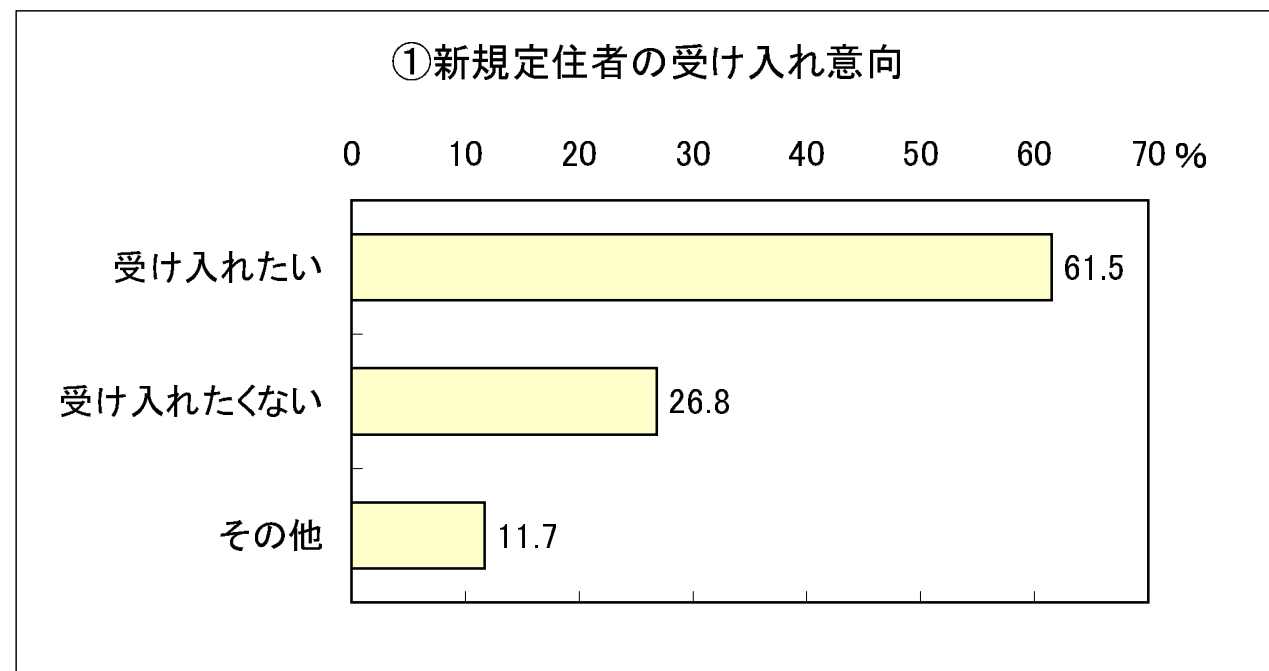
(6) 後継者不足などで消滅した又は消滅しそうな伝統行事、伝統芸能(調査票1 問16)

・後継者不足などで消滅した又は消滅しそうな伝統行事、伝統芸能の上位5位は、「盆踊り」(45.4%)、「春祭り・秋祭り」(25.6%)、「講・寄り合い」(22.7%)、「法要・供養」(13.0%)、「神楽、歌舞伎など」(5.3%)である。
 ・1位の「盆踊り」は、前項では4位であり、消滅した集落が多いと考えられる。

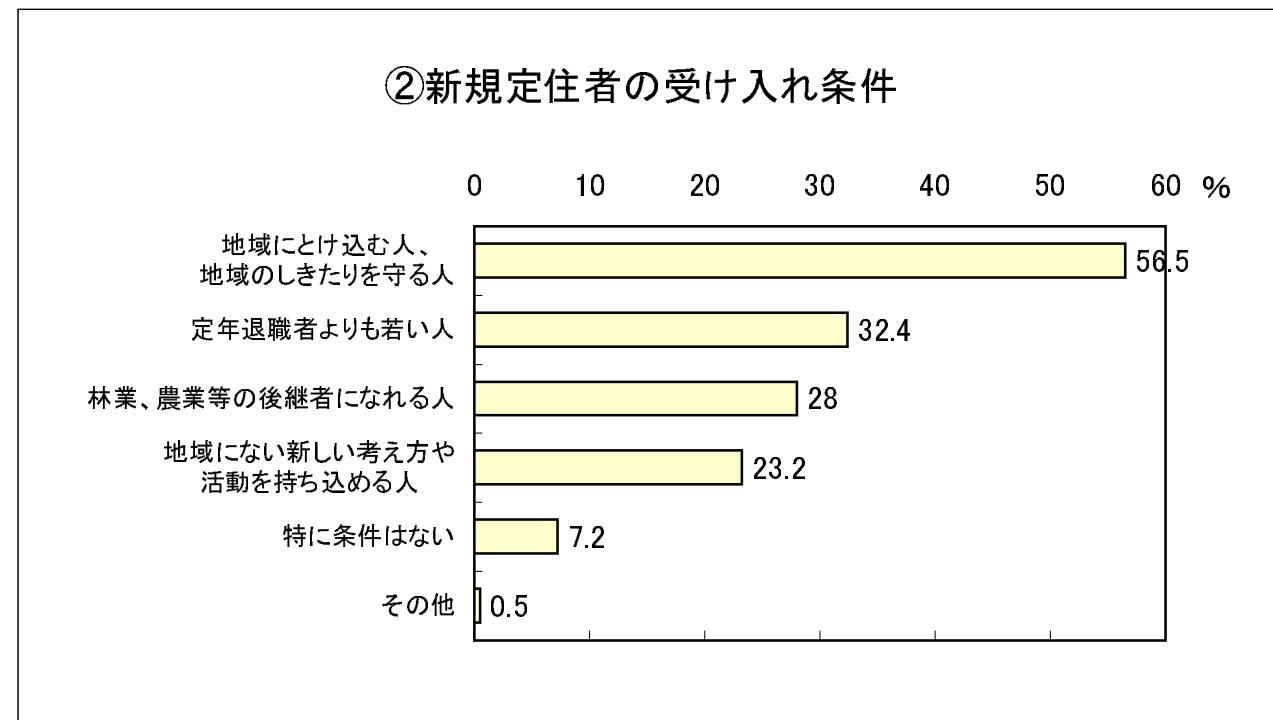


(7) 新規規定住者の受け入れ意向及び受け入れ条件 (調査票1 問19、問20)

・①新規規定住者の受け入れ意向については、「受け入れたい」(61.5%)、「受け入れたくない」(26.8%)となっている。

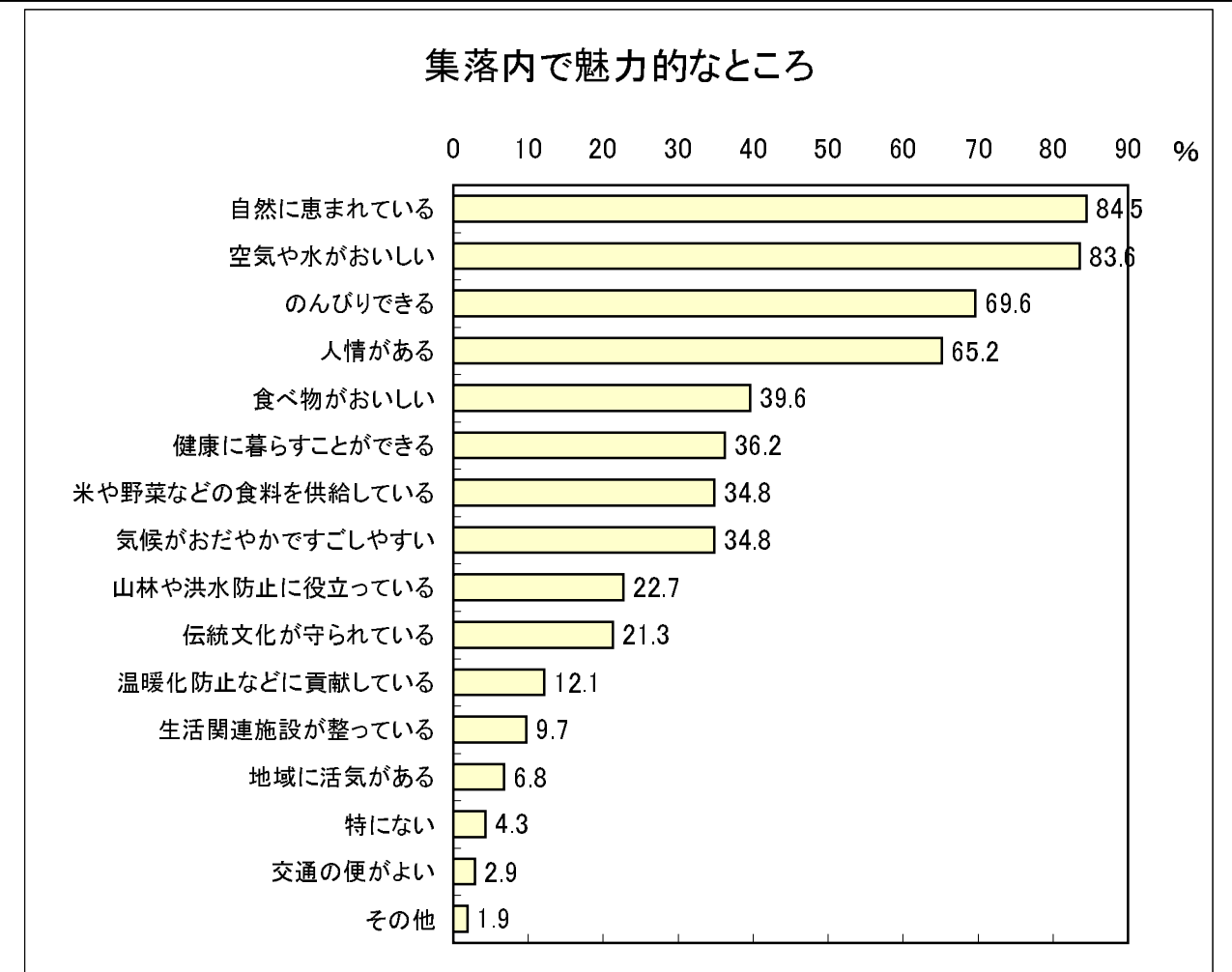


・②新規規定住者受け入れの条件の上位4位は、「地域にとけ込む人、地域のしきたりを守る人」(56.5%)、「定年退職者よりも若い人」(32.4%)、「林業、農業等の後継者になれる人」(28.0%)、「地域にない新しい考え方や活動を持ち込める人」(23.2%)である。



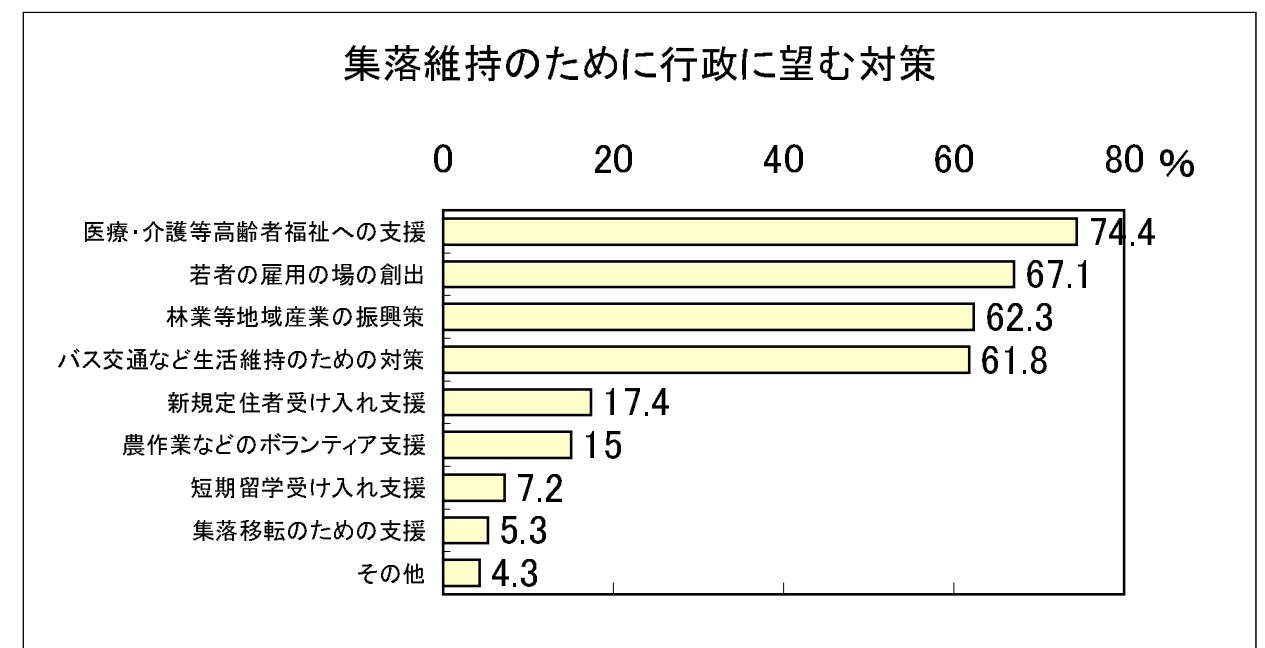
(8) 集落内で魅力的なところ (調査票1 問24)

・集落内で魅力的なところの上位4位は、「自然に恵まれている」(84.5%)、「空気や水がおいしい」(83.6%)、「のんびりできる」(69.6%)、「人情がある」(65.2%)である。



(9) 集落維持のために行政に望む対策 (調査票1 問29)

・集落維持のために行政に望む対策の上位4位は、「医療・介護等高齢者福祉への支援」(74.4%)、「若者の雇用の場の創出」(67.1%)、「林業等地域産業の振興策」(62.3%)、「買い物、通院、バス交通など生活維持のための対策」(61.8%)である。



Ⅲ 調査結果を踏まえた展開

・調査結果を踏まえ、新たな「奈良県過疎地域自立促進方針」(平成22年9月策定)においては、基本方向を以下の4項目に整理し、重点的に取り組むこととした。

ア 医療・介護等高齢者福祉への支援

イ 若者の雇用の場の創出

ウ 林業等地域産業の振興

エ 集落の維持・活性化(買い物、通院などにおける移動手段や生活維持のための対策)

・また、新たな「奈良県過疎地域自立促進計画」(平成22年12月策定)においても、過疎方針で定めた4つの基本方向に基づき、県が実施する施策を具体化した。

(10)自由記載欄の主な意見(調査票1 問30)

- ◆人口の減、超高齢化のため、各施設の維持管理が困難となり、伝統行事等の開催が難しい。
- ◆林業の不振で雇用の場が減った。
- ◆高校になると通学が不可能となる。
- ◆鳥獣等が多く出て、農作物が食い荒らされる。
- ◆空き家対策の抜本案を検討してほしい。等

3. 過疎化進行の理由と課題

(1)調査対象集落での過疎化進行の理由

- ◆林業を中心とする地域産業の衰退により雇用の場が確保できず、労働力が流出する。
- ◆若者が地元や通勤圏域で仕事を得る場がない。
- ◆過疎地域外に進学した子どもたちを、ふるさとに戻らせる仕組みが構築されていない。

(2)調査対象集落の共通課題

- ◆高齢化の進行による自治会組織の弱体化、集落機能の脆弱化
- ◆地域産業(林業等)の衰退による雇用の場の減少
- ◆有害鳥獣被害の多発と農産物への被害の拡大
- ◆伝統行事(盆踊り・祭り等)の消滅の危機
- ◆空き家の増加